

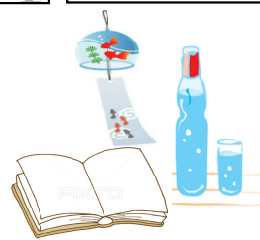


# 図書館だより



## 図書委員からお薦めの本を紹介します！

7月に入りました。ジメジメとした梅雨も、もうすぐ終わりです。夏休みの予定は決まっていますか？さて、今号も引き続き、図書委員会の1・2年生メンバーが「お薦めする本」を紹介します！これらの本は、図書委員が本気で薦めているものです。気になる本がみつかったら、この夏休みを利用してぜひ読んでみましょう！



2-1 瀧 友輔

『世界の刀剣歴史図鑑』

ハービー・J・S・ウィザーズ著 原書房  
皆さんは刀剣といえばどんなものを思い浮かべますか？逆刃刀？斬鉄剣？獅子王？燭台切光忠？エクスカリバー？天叢雲剣？蜻蛉切？この本には世界の刀剣の歴史が載っています。図書室にある本なので是非読んでみて下さい！



2-1 坪内 彩斗

『空の境界(上)』 奈須きのこ著 講談社

とあるビルでは連続飛び降り事件が発生していた。主人公である両儀式はさらわれた友人を取り戻すために単身ビルへと乗り込んで行く…。独特な世界観と登場人物が織り成すストーリーに目が離せません！



2-2 平田 凱誠

『数の悪魔』 エンツェンスベルガー著 晶文社

様々な図形の性質や特色、パスカルの三角形や循環小数などのとても有名なものからマニアックなものまでたくさんものが書かれている。数学があまり好きではない人から好きな人まで誰でも楽しめます。



2-2 高島 和華奈

『青春探偵ハルヤ』 福田栄一著 創元社

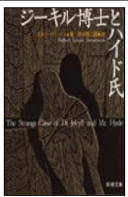
浅木晴也はアルバイトをしながら大学に通う苦学生。ある日、ストーカー撃退を頼まれた。しかし、次から次へと面倒なことが起こって…。2つの事件から次々と事件が生まれ、いつの間にか世界に引きこまれます。



2-3 滝澤 空也

『ジークル博士とハイド氏』 スティーヴンソン著 新潮社

博学を誇り、慈悲深いジークル博士の遺言状には、遺産の受取人としてなぜか残虐なハイド氏の名前があった。ジークルとハイドの間には何か秘密がありそうだが…。読み進めることで分かっていく2人の関係に驚きを隠せません。



2-3 黒澤 瑛美

『少女』 湊かなえ著 新潮社

親友の自殺現場を見てしまった転校生の話を聞いて、「死体より、人の死ぬ瞬間を見てみたい」と考えた女子高生2人の夏休みを描いたミステリー小説。一回読むとまた読みたくなるおもしろさです。



2-4 箱崎 光

『虹色ほたる』 川口雅幸著 アルファポリス

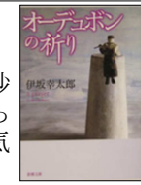
この本は時空を越えた小学生たちの夏の物語。交通事故で父を失った少年が父との思い出の場所に虫採りに行くが突然の大雨で足をすべらせ気を失ってしまう。目を覚ますとそこには…。景色の描写が丁寧で、自然と物語の世界観に入りこめます。



2-4 和田 桃子

『オーデュボンの祈り』 伊坂幸太郎著 新潮社

目が覚めると知らない島にいた伊藤。そこで出会うのは妙な島民と、未来が見えるカカシを巻き込んだ殺人事件。彼らの思惑が交錯し、迎える驚きの結末とは？終盤に伏線が一気に回収されるその爽快感が魅力の本です。



2-5 猿田 妃花

『世界から猫が消えたなら』 川村元気著 小学館

余命わずかかと宣告されて主人公は、悪魔と、物を1つ消すたびに1日寿命を伸ばすという契約を交わす。しかし、消えゆく物の大切さに気がついた主人公は……。読めばきっと、この世界に存在する物の大切さに気がつくはずだ。



2-5 松本 瑠奈

『アバター』 山田悠介著 角川書店

ゲームの中のもう1人の自分「アバター」によって、物や金、そして人の心まで動かす力を持つ主人公。ゲームと現実の境がなくなってしまうそんな感覚を楽しめる一冊。舞台が学校のため、想像もつかない世界が描かれているのにどこか親しみやすい本です。



2-6 田尻 湧紀

『紀ノ川』 有吉佐和子著 角川書店

舞台は和歌山県。明治から四代に渡って続く真谷家の女性の物語である。綺麗な方言と鮮やかな心情描写が美しい作品となっている。まるで本の世界に吸い込まれるように夢中になれる物語です。



2-6 滑川 弘樹

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩著 新潮社

主人公まいは中学校に進んでまもなく不登校になり祖母と暮らすことになる。そこでまいは魔女修行を受けることに。その魔女修行とは…。まいを見守る祖母の視線が厳しくも温かく、こんな祖母がいたらと思います。



2-7 小鷹 聖也

『魔女の宅急便』 角野栄子著 角川書店

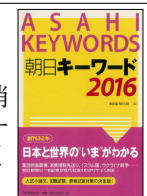
お母さんは魔女、お父さんは普通の人、そのあいだに生まれた一人娘のキキは黒猫のジジとともにコリコという海辺の町で「魔女の宅急便」屋さんを開きます。健やかに成長していく少女キキの様子を描いた不朽の名作です。



2-7 田所 周大

『朝日キーワード2016』 朝日新聞編 朝日新聞出版

日本と世界の「いま」がわかる本です。集団的自衛権、消費税先送り、イスラム国、ウクライナ紛争などについて、キーワード別に、朝日新聞の一線記者が現代社会をわかりやすく解説しています。入試論文、受験対策に役立ちます。



2-8 片山 拓也

『神様とおしゃべり』 さとうみつろう著 ワニブックス

始まりは約1年前。主人公のみつろうは瞑想する内におしゃべり神様と出会う。神様の声をきいている内にみつろうの人生は変わり始め…。物語の展開、丁寧な情景描写、個性豊かなキャラクター、魅力は挙げればキリがないです。



2-8 永岡 翼

『5日間の休みていけちゃう！ 絶景・秘境の旅』 A-WORKS著 A-WORKS

この本は、世界の絶景・秘境を紹介、予算から行き方までも完全ガイドしてくれます。手頃な値段で奇跡の別世界へいけます。特にイエメン国の「ソコトラ島」は不思議な景観が魅力的でした。ぜひ読んでみてください。



2-9 小坪 尚樹

『島の名前』 中村庸夫著 東京書籍

東南亜細亜にある香港島、長州島、大嶼山、島などの東南アジア各所にある島々が紹介されている本です。島々の美しい写真がいっぱいで、写真集としてもみることができます。読んでみるとマニアックな発見があってそういうところも面白いです。



2-9 遠藤 誠実

『マスカレードホテル』 東野圭吾著 集英社

都内で起きた不可解な殺人事件、容疑者もターゲットも不明。残された暗号から判明したのは、次の犯行場所が一流ホテル、コルテシア東京ということのみだった。犯人が最後までわからずずっとワクワクしながら読むことができます。



2-10 内山 魁人

『流星ワゴン』 重松清著 講談社

永田一雄38歳。家庭は壊れていた。一雄は時空を超えて過去に行き、家庭が壊れた原因を一つずつ解決していく。陰悪だった一雄が今の自分と同年の38歳の父親を知ること、お互いを分かり合えるところにほろりときます。



2-10 近藤 匠

『バケモノの子』 細田守著 角川書店

9歳の少年蓮が、バケモノ熊徹に育てられ、日々成長していくストーリー。本当の親子ではない2人だが、日々の修行を重ねてゆく内に絆が芽生え出す。熊徹のライバルである猪王山との戦いに鬼気迫る迫力を感じます。

